

安保法案 与野党対決へ

あす審議入り 各党は幹部級投入

集団的自衛権の行使容認を含む安全保障関連法案が、26日の衆院本会議で審議入りする。後半国会最大のテーマとなる審議には各党が幹部級を投入。会期延長で今国会成立を図る政府・与党に対し、野党は成立阻止を目指す民主党内に維新の党も協力する姿勢を見せ始めており、与野党が激しく対立するのは必至だ。

自民党は26日の本会議の質問に稲田朋美政調会長、27日以降の平和安全法制特別委員会には、与党協議会で座長を務めた高村正彦副総裁が登場。特別委の委員には岩屋毅、今津寛両氏ら協議会メンバーを起用した。法案作成に関わった当事者が表に立ち、安倍晋三首相らから分かりやすい回答を引き出す狙いだ。

特別委の委員はずでに、43問からなる「切れ目のない『平和安全法制』に関するQ&A」などの資料を用い、政府側も交えて勉強会を開くなど万全の準備で臨む。一方、党幹事長経験者は特別委の浜田靖一委員長(自民)に「並の法案でないのだから、急がば回れ。強行採決は避けた方がいい」と助言。今国会成立は譲らないものの、野党に配慮する意向だ。

慮し、審議時間はしっかりと確保する意向だ。対する民主党は26日に枝野幸男幹事長が登壇し、特別委の最初の質疑には岡田克也代表が立つ。首相との対決姿勢を鮮明にする同党は、自衛隊員のリスクについて「増大していない」と述べた中谷元防衛相にも揺さぶりをかける構えだ。

特別委の筆頭理事には、知名度の高い長妻昭代表代行を起用して発信力を重視した。委員には保守派の長島昭久、リベラル派の辻元清美両氏を据えて党内バランスを取った。松野頼久代表の新体制で臨む維新は26日の質問者に党唯一の女性、太田和美氏を立て、「女性から見た安保法制」として独自の切り込みを行う。

安倍政権に「是々非々」の立場の松野氏だが、安保法案の進め方は「あまりにも強引だ」と批判。24日には熊本市内で記者会見し「年内に民主党だけではなく他の野党まで含めた幅広い結果をしたい」と野党再編を明言した。目指す規模

平和安全法制特別委員会の各党メンバー

委員長	浜田靖一 ⑧	
委員	⑦	②
○今津寛	⑦	②
○岩屋毅	⑦	②
原田義昭	⑦	②
平沢勝栄	⑦	②
◎江渡聡徳	⑥	②
○松本純	⑥	②
小野寺五典	⑥	②
山口壮	⑤	②
○御法川信英	④	②
木原誠二	③	②
盛山正仁	③	②
若宮健嗣	③	②
小田原潔	②	①
大野敬太郎	②	①
◎長妻昭	⑥	④
辻元清美	⑥	③
長島昭久	⑤	③
大串博志	④	②
○下地幹郎	⑤	②
太田和美	③	②
○佐藤茂樹	⑧	②
○遠山清彦	③	②
志位和夫	⑧	⑥
赤嶺政賢	⑧	⑥

敬称略。◎は筆頭理事、○は理事。丸数字は当選回数

は衆院で「100人以上」とした。また、民主党には集団的自衛権行使をめぐり意見の幅があり、維新は大阪選出の議員を中心に民主党に近づく松野氏への警戒がある。与党を攻めるはずの「安保国会」は、逆に野党の「矛盾」があまり出されることになりかねない。(水内茂幸、山本雄史)